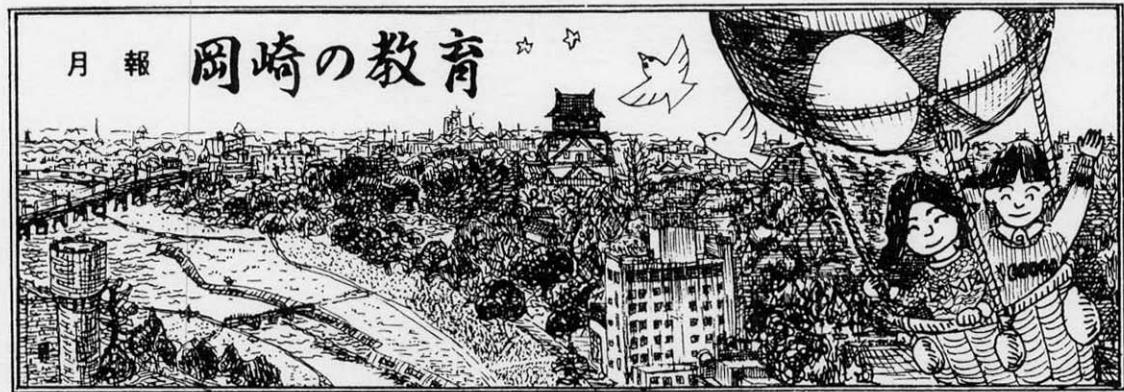


月報岡崎の教育

62年度 No.167～178



岡崎市教育委員会



4月号

石の門

どつしりかまえた

大きく伸びよと
見つめてる
立派に育てと
はげます石

愛宕の顔がにつこりと
きようの入学むかえてる

石 石
大きな石の門

<大きく伸びる>

昭和62年4月1日
発行 / 編集
岡崎市教育委員会



(入門一愛宕小)

— 教 育 随 想 —

21世紀に向けて 求められる人

21世紀まであと13年となり、世界が大きく変革を遂げようとしています。日本に於いては一昨年九月のG5以来、急激な円高が進行し、現在一ドル一四〇円台というおどろくべき為替になつていて、一三〇年前黒船が浦賀沖に姿をみます。そして以来の革命が、また第二の開国が始まろうとしています。

増した時代でもありました。そして一九八〇年代、今まさにメカトニクス時代の真っ最中で、ロボットを中心に工場の無人化が急速に進んでいます。これからいよいよ家庭に入ってきます。

戦後四〇年間のわざかな期間でこれほど急激な成長を遂げた真の原因はなんにあつたのか……。ある人は日本人の勤勉をその第一の理由においています。また教育水準の高さをその原因に掲げる人

ため原油に換算すると7\$／バレルの高いエネルギーを使っていました。日本だけが安くて豊富な石油を、だれにも気がねする事なく使い、急速に力をつけ、世界中が驚愕する急成長を遂げたわけです。ところが、よく（我々の身の廻りを見渡してみると、そのオリジナルはすべて外国からの真似であります。自動車やテレビ等すべてのものが外国で考えられたものです。持ち前の器用さで、安価で

授業のよしあし以前

瑪利打連

竹内
昭次

すと、一九五〇年代は鉄鋼を中心とした重工業が発達し、戦後の復興に大きく貢献をしました。特に造船は花形産業となり世界一の能力と技術を持ちました。一

もいます。いずれも一面正しいと思いま
すが、決定的であつたのは安い石油がい
くらでも手に入った事ではないかと思いま
す。一九六〇年代、中近東で大油田が

いわれております。右脳は超合理的な感性、創造の機能を持っています。左利きの人は右脳が発達をしており、これから期待される人です。

を得るために何回も分けてたねを時ときその中からころあいのものを持つてきただと、いうことだつた。

安価な家電製品が次々と世に出ました。一九七〇年代は車社会が到来しました。

護のためこの安価な石油を手に入れられず、日本の倍の価格の石油を使っていまして。ヨーロッパに於いては石炭産業保護のためこの安価な石油を手に入れられ

21世紀に向けて、さらに日本が成長し続けるためには、独自性のある人をいかに育てるかが大きな鍵となります。

い事からでもそれを使って授業を進めていくのだ。それがうまい授業、よい授業といわれる場合だつてある。しかし、



羅
編
集
卷



ふるさとシリーズ —この人に聞く—

切越八面塔の保存

青山 菊保氏

青山さんは昨年度、岡崎教育文化賞を受賞された。切越町にある市指定文化財の八面塔を、父乙次郎さんの亡き後、引き継いで十三年間も守り続けている。

「戦前、切越は十二世帯の部落でしたが

ね、今は三世帯六人になってしまいましたがね。八面塔の保存もわし一人でやっているのではなく、部落の皆でやっていることなんですね。」

八面塔は、青山さんの家の西寄り斜面に自然石を積み上げてつくられた八基の多層塔である。

「ここでは八面塔のことを八ツ面おととか八面さんと呼んでいるんだが、いつごろ、

易者に占つてもらった。

すぐじゅうは「村の東端にある山の中腹に、落武者の墓がある。その靈をまつりなさい」と教えた。村人は早速、

崩れかけていた墓石をもと通りになおし、記念に花火を打ち上げようとした。

ところが、花火に何度、火をつけてもはぜない。そこでもう一度、すぐじゅうに尋ねた。「落武者は静かなことが好きなので、花火が上がらないようにしたのだ」という。村人は、桜井寺の

法院様に七日七夜、祈とうしてもらつた。すると、赤痢はなおり、静かな平和な村にもどつたという。

その日が旧の八月二十九日。今でもこの日には桜井寺の法院様にお参りし

だれが、どうしてつくったのかはつきりしていない。昔は八面塔についての書き付けがあつたといわれていたんだが、火事でなんにもなくなってしまったということなんですね。」

一説には、承久の乱後、順徳上皇を守護した本間三郎左衛門の一族がこの地の山中に住み、墓塔をたてて祖先を供養したともいわれる。

「こんな伝説もあるんですね。昔、この部落の一帯に腹くだり、今でいう赤痢がはやっていた。その時、百俵おとさというあだ名の庄屋がいた。本間勇藏といふ人で、万一のことに備えて米を百俵くらい蔵にしまっておいたといふ。百俵さんは赤痢をなおすよい方法がないものかと、三河一宮のすくじゅうという易者に占つてもらった。

すぐじゅうは「村の東端にある山の中腹に、落武者の墓がある。その靈をまつりなさい」と教えた。村人は早速、

遠足などで年間千人近くの児童・生徒も遠足などで年間千人近くの児童・生徒も

やつてくる。こんな時、青山さんは切越の生茶で歓迎する。



子供たちの目が輝くとき

前音楽科指導員

白井 純子

「今の演奏は、どうでしたか?」「みんなの速さが、途中で合わなくなってしまった。」

班長さんを中心にして、「ジャマイカ

ルンバ」のグルーブ練習が進められた。

先ほどまで鍵盤ハーモニカで主旋律を演奏していたT君、待っていましたとばかりに、机の上に広げられた手作りの紙

鍵盤をリズムにのつてたたき出した。見

ると、なんとばちも手作りである。本物

の立奏木琴に触れる前のひと時、T君は自信にあふれた顔つきで紙鍵盤をたたき続けた。トン、トン、トン……。

初めての本格的な合奏練習である。木琴のパートも全員の子供たちが演奏できるようにならせるために、先生の熱意が、いつでも、どこでも、だれでも練習できる手作り鍵盤を生み出したのである。

一人ひとりの子供たちが意欲的に取り組み、「できた!」「友だちに認められた!」等々を感じた時、それが楽しさと結びつかない学級経営が授業にじみ出していた。

本物にこだわったこの二人の先生に、授業のよしさ以前の、先生のあるべき姿を見たという感じがした。

(住 所 切越町字落二十六の二十八)



教育は「教師その人」にある。
教師の力量や言動は、直接、児童生徒に反映し、人間形成に大きな影響を与える。

教師は常に自らを磨き、見識を深め、教える専門職としての力量を高める努力が何より肝要である。

今日、強く求められている教師像は、教育愛に溢れ、使命感に燃える教師であり、一人ひとりの児童生徒の心にいくこんで、喜びや悩みを共にし、常に自己研鑽に努める教師である。

「ひとりを粗末にするとき、教育はその光を失う」

岡崎の教師は、この至言を体し、全校一致の指導体制のもと、固い敬愛の情で結ばれた師弟関係を一層深め、保護者及び地域社会の期待に応えなければならぬ。

指導の重点

一、基礎的・基本的な知識、技能を身につけさせ、自ら学ぶ態度や習慣を育てる。

一、いのちを尊び、礼節を重んじ、思いやりのある児童生徒を育てる。

一、強制な体と、自らを律し、たくましく生きぬく心を育てる。

教育という営みは、教師と子どもとの信頼関係の上に成り立つ。そのためには教師は、単なる指示者であつたり、命令者であつてはならない。子どもたちに、学

(一) 基礎的・基本的な知識、技能を身につけさせ、自ら学ぶ態度や習慣を育てるため



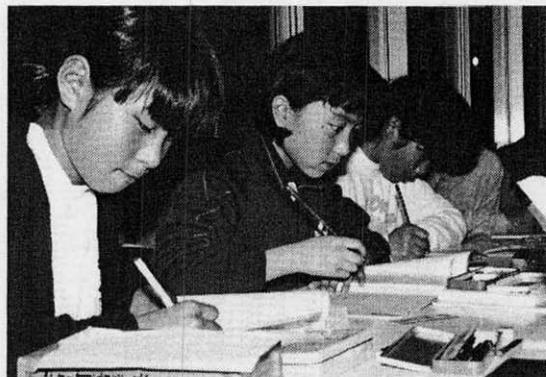
ぶ時と場を適切に与え、子どもたちと共に学ぶというには、あるいは子どもたち自らが学ぶ機会をつくることが必要である。

教師自身も、子どもと共に学ぶという心構えで教育を進めるところこそ、教師に対する子どもの信頼感、ひいては親の信赖を得ることになるのである。

自ら学ぶ力を育てるには、まず、そのための前提となる基礎・基本を習得させなければならない。この基礎的・基本的な学習事項は、すべての子どもに等しく与えるべき学力であり、義務教育では、とくに大事にすべきものである。

そのためには、第一に、何を学ばせかを教師の側できちんとおさえることである。基礎的・基本的なことと応用的なことにより分ける力が、教師に要求される。

第二には、一人ひとりの子どもについ



て、習得状況を具体的に把握して指導することである。「わかりましたか」式の一斉指導だけでは、基礎・基本の徹底は到底望めない。

さらに第三には、評価の結果に応じて足りないところを補充するための指導をすることである。一斉学習だけでは指導の徹底が図れない子どもには、マン・ツーマンの個別指導が必要である。

次に、この基礎的・基本的な学習事項の習得のうえにたって、子ども自ら、主体的・積極的に学ぼうとする態度の育成に努めたい。

そのため、子どもの知的好奇心をほりおこし、子ども自らが目標をもつて課題を追究していくような指導のあり方を研究する必要がある。

自ら学ぶ力を育てるには、これまで以上に、教材研究が必須の課題となる。教材内容の分析、追究はもちろんのこと、子どものわかり方をふまえた指導法を工夫して、子どもたちが意欲をもつて生き生きと学習できるよう努力したい。

(二) いのちを尊び、礼節を重んじ、思いやりのある児童生徒を育てるため

文化の進展に伴つて、私たちの生活は

豊かさの一途をたどり、衣食住ともに満ちたりたものとなつてゐる。しかし、この物質面での豊かさにひきかえ、人の心の豊かさは、むしろ蝕まれている感が深い。そして、子どもたちの日常生活は、

自然や社会、人とのかかわりが稀薄になり、ひとりよがりや甘え、無責任など自己中心的で衝動的な言動が目立つ。この現実を踏まえ、「いのちの尊厳」と「礼節」とを重点に、学校教育のすべてを通して、心の教育の実現を図りたい。

「いのちの尊厳」については、とくに自然に親しみ、働きかける機会を多くす

る。そして、たくましく生きる動植物の飼育栽培や成長の様子等の観察を通して子どもたちに、いのちの大切さや畏敬の念、生きることの素晴らしさを体得させたい。このことが、ひいては自然への感謝の心、他への思いやりの心を育てることなる。

「礼節」については、とくに、あいさつと返事を大切にしたい。明るく、大きな声のあいさつを通して、子どもと教師の間に敬慕と慈愛の心が培われるよう心がけたい。

教師と子どもは友だち仲間ではない。人世には長幼、序のあること、尊敬すべき人には礼を失してはならないこと、親の恩、師弟の関係等については、子どもたちに教え、導くことが大切である。勿論、私たち教師は、子どもたちが心から慕い、敬つてくれるような人格と能力を身につける努力を怠つてはならない。

第二は、困難に耐えぬく力をつけることである。自己的目標を達成することはそんなにたやすいことではない。数度の失敗で挫折することなく、何度も挑戦する気概を持たせたい。そのためにも、教師は子どもの営みをじっくり待つ余裕がある。

第三は、子どもの遅々とした努力でもほめることである。敬愛する教師からの賞賛がそこにあれば、自信を深め、遠い将来を見通す力がついてくるものである。

表面に現れた結果は誰にでもほめられるが、表面に現れにくい本人の努力を賞賛することこそ肝要である。

が、子どもたちに教えられてきた。しかし、昨今、それらの教育力が残念ながら低下し、生徒指導上の諸問題が現れてきている。

そのためには、健康な身体を鍛磨することとは無論のこと、自分で自分の生活を律していく力を身につけさせる必要がある。

その第一は、小学校の段階において基本的な生活習慣の徹底をはかることがある。あいさつ、ことばづかい、時間や規則を守ることなど、集団生活に必要な基本的なことを、体得できるまで繰り返し指導したい。その体得の過程の中に自己の規範が芽生え、自律の心が育つものである。

かっては、家庭や地域社会において、人として守らなければならない規範など

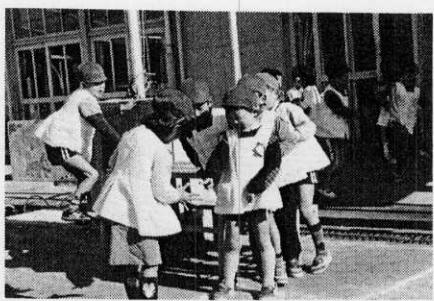
(三) 強靭な体と、自らを律し、たくましく生きぬく心を育てるために

豊かさの一つをたどり、衣食住ともに満ちたりたものとなつてゐる。しかし、この物質面での豊かさにひきかえ、人の心の豊かさは、むしろ蝕まれている感が深い。そして、子どもたちの日常生活は、



大きな自信へ

矢作幼 阪野 芳枝



M・Y・Bの三人、Tを囲み、Tを囲み、
「T君、一人で来た?えらいね。」
「T君、すごいね。」
入園以来、靴箱で迎えないと
母親と離れない。そこでシッポ
と、元気よく保育室へ入つて來
る子供たちを押し分け、
「先生、先生、T君一人でへや
へ来たよ。」
と、Aがとび込んできた。その
後、Tがニコニコして立つて
いる。
「あら、おはよう。T君えらか
つたね。一人で来られたのね。」
と、抱きあげる。
「うん、僕、一人で来たよ。」
「先生、びっくりしちゃった。」
「••••」
照れくさそうにしているT。

「先生、びっくりしちゃった。」
「おはよう。」
翌日も、翌々日も、
と、一人で保育室へかけ込んで
来るようになつた。
すっかり自信をつけ、友だち
にも認められると、一々一人の
子と一緒に、追いかけっこをし
たり、縄とびをしたりする姿が
日に日に増していく。

そして、二月末には、大勢の
子に混じり、ジャンケン陣とり
に目を輝やかせている。

このように、ささいな事が出
来るようになると、友達にも認
められ、大きな自信へとつなが
り、遊びの中にまで反映してき
た。この姿を見て、個々の子を
よく見つめ、受けとめてきた事

が、報われた思いがする今日こ
の頃である。

まだまだ、新しい事への抵抗
が見られるT君である。今私は
周りの子供達と共に成長し合い
励まし合い、喜びを共にできる
子に成長して欲しいと願うと同
時に、地についた個々の指導の大
切さを改めて痛感している。

そこで、家庭での親と子の話
題となるようなものを提供し、
そこから共通の話し合いの場が
持てるようにしたいと考えた。
それが、学級通信「広場」で
ある。これまでの学級だよりは
学級での学習ぶりや、行事連絡
等が主であったが、今回からは
子どもの生活の中から、ふと氣
づいたことがらを私見を交じえ
て問いかけるようにした。

「ひろばにのつていた小学生の
マナーは、お母さんがとても気
にいっていたよ。」「一日の子どもの生活の様子の
中で、とくに印象的だった場面
をピックアップして、子どもの
生活習慣としてふさわしい行為
について考えてみましょう。」
と、子どもと親にはたらきかけ
るようにした。その一例をあげ
てみると、

「服のぬぎ方しまい方

体育の服装に着ができるとき、
ぬいだ服をそのまま机の上に、

親と子への呼びかけ

緑丘小 内藤 修



教育日々



にした。何となく毎日を過ごし
ている子どもの姿に母親は歯が
ゆい思いをしているのだろうか。
それとも、子どもとの毎日の対
話があまりにも単純で、心の通
わないものになつてているのだろ
うか。とにかく、親子のふれ合
いの場が少なくなっている。

そこで、家庭での親と子の話
題となるようなものを提供し、
そこから共通の話し合いの場が
持てるようにしたいと考えた。
それが、学級通信「広場」で
ある。これまでの学級だよりは
学級での学習ぶりや、行事連絡
等が主であったが、今回からは
子どもの生活の中から、ふと氣
づいたことがらを私見を交じえ
て問いかけるようにした。

「ひろばにのつていた小学生の
マナーは、お母さんがとても気
にいっていたよ。」「一日の子どもの生活の様子の
中で、とくに印象的だった場面
をピックアップして、子どもの
生活習慣としてふさわしい行為
について考えてみましょう。」
と、子どもと親にはたらきかけ
るようにした。その一例をあげ
てみると、

「服のぬぎ方しまい方

体育の服装に着ができるとき、
ぬいだ服をそのまま机の上に、

にして親子の対話を求めてみた。

子どもが一緒に育ててさし木を行い、年間一万本以上の苗木を育ててきた。

○六月十日……岩津小学校
○十月二十八日：岡崎小学校
常磐中学校
○十一月十六日：竜海中学校
矢作東小学校

期待の新任教員 六七名
昭和六十二年度岡崎市小中学校新規採用教員は六七名（小学校三〇名 中学校三七名）である。期待される新任のみなさん

▽ 惠田小
▽ 細川小
▽ 岩津小 今枝恭子
▽ 矢作東小 船越 学
▽ 矢作北小 米津千尋

学校環境緑化「日本一」
岡崎市立広幡小学校

昭和六十一年度全日本学校環境緑化コンクール（国土緑化推進委員会主催）において、岡崎市立広幡小学校（伊豫田参吉校長・児童八百二十九人）が日本一の特選に選ばれた。本市では十七校目の快挙である。

の桜木におおわれ、街の中にあ
る学校とは思えないほど、緑豊かな
な学校となっている。そして、
子どもたちは、自由に木登りを
楽しむなど、遊びの中で緑に親
しんでいる。

昭和六十二年度県教育委員会
学校訪問について

五月二十四日 佐賀県で開かれる第三十八回全国植樹祭の席上で表彰される。

昭和六十二年度市教育委員會
訪問

- ◆問いを持ち共に高め合う子ども「つとめてやむな」矢南小 B5 一三〇ページ

◆葵中の教育「やる気と思いやりの心」を育てる教育活動 その一 葵中

B5 一〇二ページ

No.95 六ツ美中学校

一二八ページ

△美川中 小島裕美・徳元清政
△南中 野澤里佳・高橋佳子
△南中 浅井ひろみ

△矢作西小 則武幸子子
△六ツ美中部小 成瀬真理子
△六ツ美北部小 梶田誠一
△六ツ美南部小 田辺正幸
△城南小 横山聰夫
△上地小 田中鉄也

△中学校

〔寄贈刊行物・資料等〕

◆岡崎の教育第27集

- An illustration of a cherry blossom branch with several flowers and buds, accompanied by falling petals.

◆子どもの目でとらえた本宿の姿——みんなでつづる郷土の記録——

◆自作ビデオ教材活用事例 B5 一〇五ページ 教職員

- ◆問い合わせを持ち共に高め合う子ども
も「つとめてやむな」矢南小
B5 一三〇ページ

◆墓中の教育「やる気」と思いや
▽矢作西小 則武幸子予
▽六々美中部小 成瀬真理子
▽六々美北部小 梶田誠一
▽六々美南部小 田辺正幸



矢作東小学校

吉田正秩先生 彰徳碑

矢作東小学校校門の西に、校庭を見守るように吉田正秩先生の彰徳碑が建っている。

吉田先生は旧岡崎藩士で、幼年より文武に優れ、明治二年三十歳の時、允文館の学監となつた。明治七年、矢作村からの招聘で矢作東小学校の前身である矢作第一尋常小学校の教員となり、以後校長として三十年にわたり矢作の教育に尽力した。

明治二十九年、当時の門人の人々が報恩のため先生の彰徳碑を建てた。碑文からは明治二十四年十月二十八日に突發した濃尾地震に際して、子どもたちの身を案じ、矢作川の氾濫に際し

ては、危難を冒し登校するなど、

子どもたちを思う先生の姿を見ることができる。教育に情熱を傾けた先生のもとからは、岡崎市名譽市民石田茂作博士をはじめ多くの人々が育っている。

その後、校地校舎の移転もあり先生の薰陶を受けた人々の手により彰徳碑は昭和二年九月矢作神社へ移築された。碑の創建後八十年を経た昭和五十年二月再度現在の位置に移された。学区民総意のことであると聞く。



*あさってのジョー

新潮社

猪瀬直樹

¥1100

*辞世のことば

中央公論社

中西 進

¥ 540

*人の情けの盃を

淡交社

山川静夫

¥ 980

*道教と日本思想

徳間書房

福永光司

¥1600

※白き瓶

文藝春秋

藤沢周平

¥2000

長塚節は、結核のため37歳の若さでこの世を去了。高熱に苦しみながら不屈の気力で歌作に取り組み「鍼の如く」其の五、大正4年「アララギ」新年号に掲載の作品が最後になった。病身に旅と歌がとどめを刺したのである。

この歌人は、聖僧の面影があるといわれた清潔な風貌とこわれやすい身体をもっていた意味で、自ら好んで歌った白瓶の瓶に似ていたかもしれない。著者がその生涯をくまなく描く鎮魂の賦。

新年度、新学期、新入生と四年

は新の字がよく似合う。本来、こ

シ
オ
ス
ア

の世のものは連続したものである

以上、本質的に新しいものはない。にも

かわらず、新の字がこうも似合うのは

現実からの飛躍を願う人間の生命力のな

せるわざだろう。若竹の節目のように連

続を断つてこそ四月は新しく蘇る。

誰も

すみれ、たんぽぽ、れんげ草等

草花の咲き乱れる学校周辺の野に

子どもたちと出かけた。

テレビやファミコンに夢中になつて

現代っ子を、昔ながらの草花遊びに興じ

させることができたのは、収穫であつた。

●	カ	表	字
●	タ	イ	題
●	イ	ト	●
ツ	紙	写	真
ト	詩		

岡崎市長 広幡小 愛宕小 川高木 倉橋中 中根康夫 子哲夫

●

●

●

●

●

●

●

竜海中 愛宕小 広幡小 岡崎市長

上木高 倉橋中 中根康夫 子哲夫

新年度、新学期、新入生と四年は新の字がよく似合う。本来、この世のものは連続したものである以上、本質的に新しいものはない。にもかかわらず、新の字がこうも似合うのは現実からの飛躍を願う人間の生命力のなせるわざだろう。若竹の節目のように連續を断つてこそ四月は新しく蘇る。

誰もすみれ、たんぽぽ、れんげ草等草花の咲き乱れる学校周辺の野に子どもたちと出かけた。テレビやファミコンに夢中になつて現代っ子を、昔ながらの草花遊びに興じさせてることができたのは、収穫であつた。